様式1 # 令和6年度　山梨県立甲府工業高等学校（定）評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	時代を主体的・創造的に生き、知徳体をそなえ、地域の希望となり未来となり光となって、山梨や日本を支え、世界に羽ばたくエンジニアを育成する。

山梨県立甲府工業高等学校　校長　萱沼　恵光

本年度の重点目標	
	1　社会が必要とする人間力を育成する。
	2　基礎的・基本的な学力の定着を図る。
	3　健全な心身を育成する。
	4　新しい時代に対応した教育活動を推進する。

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価		
	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自　己　評　価

番号	本年度の重点目標 評価項目	具体的方策	方策の評価指標	年度末評価（1月10日現在） 自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	1　社会が必要とする人間力を育成する。	基本的な生活習慣を確立させる。（挨拶の徹底と時間を守る）	アンケート 登校指導 生徒会による挨拶運動	・新年度、夏季・冬季休業明けに、登校指導や挨拶運動を実施し、生徒への声掛けを行った。アンケートでは65%の生徒が挨拶の状況について肯定的である。 ・アルバイトの推奨や就職対策として社労士を講師に迎えての模擬面接など外部との交流を通して社会に適応できる人間性を高める取り組みを行った。 ・生活体験文は教育祭でも学校代表が発表する場があるが、自己の変容やこれからの目標を定めるのに効果がある。	B	・挨拶や日頃の声掛けは、いじめなど諸課題について生徒の状況の把握や早期対応に欠かせない。 ・中学時代の不登校が尾を引き、社会と交わることができない、他者と話すことがない生徒をどのように自立に導くのかが課題である。 ・生活体験文の内容から現在までの生活を振り返り、その変容を認識するとともに、将来の目標に向かう前向きな姿勢が伺えた。
		社会で自立して生きていくために必要なマナー・ルールを身に付けさせる。	道徳教育の実施結果 アンケート			
		学校行事の運営や生活体験文の作成を通じて、自ら考え行動したり良好な人間関係を築くことができるよう導く。	アンケート 個別懇談			
2	2　基礎的基本的な学力の定着を図る。	基本的な計算や漢字の読み書き能力を身に付けるなど、基礎・基本を重視した「わかる授業」を実践する。	授業アンケート 相互授業参観	・教員は授業において目標を定め授業を実施し振り返りも行っている。生徒の80%は、わかりやすい授業のための教員の工夫を感じている。家庭学習をしているいる生徒は全体の40%である。 ・授業を通じて知識・技能が身についたと感じている生徒は75%であり、昨年度から約1割減少している。 ・教員の80%がICT機器の活用により授業内容を工夫している。生徒も1人1台端末の活用度について、昨年度の40%から80%に上昇している。	B	・家庭の協力も仰ぎながら家庭学習に取り組む習慣を身に付けさせる。 ・元来目的意識が低い中で入学してくる生徒が多く、将来の職業について実感がなく学習内容に興味関心が低い。学習内容と職業をいかに結び付けるかが課題である。 ・授業での1人1台端末について、パソコンでないとできない活用について引き出しを増やしていく必要がある。そのためにICT支援員を活用した職員研修を開催していく。
		授業を通じて知識・技能が身についたと実感できるような授業展開を行う。	授業アンケート 補習・課外等の実施状況			
		1人1台端末などICTの活用などにより、生徒の学習への興味・関心を高めるよう、授業内容を工夫する。	授業アンケート 相互授業参観			
3	3　健全な心身を育成する。	部活動・委員会活動において仲間と円滑にコミュニケーションを取り、同じ目標に向かって進むよう導くとともに、他者を思いやる心を育てる。	アンケート	・部活動への加入を全員加入から自由化した。加入率は約7割である。 ・外部講師によるがん教育を実施し、生徒は日本人が罹患する割合や、普段の検診が大切なことを理解できた。 ・給食の喫食率は7割り程度であるが、辞退する生徒が増加している。 ・地震や火災など災害時に生徒自身がとるべき行動について自衛隊からの助言を得るなどし理解を深めることができた。	B	・部活動においては学年を超えて会話があり、互いの動きを確認したり、励まし合う姿が見られた。 ・生徒の食事はコンビニやファーストフードに流れがちである。外部講師による講演会に取り組み、バランスのよい食事の大切さを伝える。 ・災害時に自分自身が取るべき行動を理解している生徒は全体の93%であった。
		健康教室や健康セミナー、喫食調査などを通して、健康・体調管理、食の大切さを指導する。	行事アンケート 給食指導 喫食調査			
		防災避難訓練や交通安全教室など教育活動全体を通じて、自他の生命を尊重する心を育む。	行事アンケート			
4	4　新しい時代に対応した教育活動を推進する。	進路講話、進路セミナーにより「進路意識」の啓発を図る。	アンケート 学科希望調査	・進路ガイダンスが企業のブースを設ける形式で2月に実施する予定である。 ・1年次生は自主的に学科選択をすることができた。 ・外部講師によるキャリア教育、校外での現場見学会を実施し、職業人との交流や実物を見ることで職業への魅力と働くことへの意義を深めることができた。 ・実習授業において、就職時において学習内容が役立つ状況をイメージさせ進路意識の高揚に務めた。 ・就職希望者には担任、進路係より、その業種に関する情報提供を行った。 ・電機工事や鉄筋組立等、外部講師に講義や実技指導を行っていただき、資格に興味をもたせるとともに取得のための指導をしていただいた。	B	・進路に関する情報や進路指導について十分と回答した生徒は全体の6割強であった。 ・就職活動が7月の産業事情説明会から始まるという状況にある。事前に就職を希望する業界について自主的に調べる指導をLHRなどを通じて取り組む必要がある。 ・就職希望者への指導は教員からの働きかけが多い結果となった。生徒の自主性による活動ができるような環境づくりをしていきたい。 ・校外で資格試験を受験し第2種電気工事士に合格し就職につなげることができた生徒もいる。学校で実施する資格試験以外の試験に挑戦するような気運を高めていきたい。
		キャリア教育の充実を図り「自分のありたい姿」をイメージさせ進路意識を高める。	アンケート キャリア教育の実施状況			
		就職希望者に対する指導と情報提供を充実させる。	アンケート 指導の実施回数			
		ホームルームや授業を通じて資格に関する情報を提供し、資格取得に導く。	各科による資格取得状況			
		社会人による講話や実技指導を実施し、資格取得に対する意識を高める。	講話や実技指導の実施状況			

学校関係者評価

実施日　（令和7年2月3日）

評価	意見・要望等
3	・出席率の高さや多くの生徒がいつも挨拶をしてくれている現状から、基本的生活習慣の確率が本当にされている。 ・企業実習の取り組みは非常に評価できる。県内企業も甲府工業生を採用したい意向を持っている企業が非常に多いことから更に充実していただきたい。 ・挨拶は社会の基本です。100%に近づけるよう指導が必要と思いいます。 ・他者と会話することで改善し、社会と交わることができる人間に育つと思います。 ・様々な困難な状況を抱えている生徒が入学して来る教育環境の中での数々の取り組みとその成果に敬意を表します。 ・挨拶運動結構です。 ・大変だと思いますが、自立できるように生徒一人一人に対応していただければと思います。
3	・文武両道が求められるが、学力において基礎学力を身に付ける取り組みを充実してもらいたい。 ・コミュニケーションを向上させるのは、社会に出てから非常に大事であるため充実してもらいたい。 ・授業を工夫され、その結果それぞれの項目で生徒たちの高い実感が得られたことは素晴らしい事と思います。 ・まずは学習習慣（読み・書き・計算）の定着からだと思う。 ・ICT機器を利用した授業は効果があります。 ・基礎的な学習を続けてください。 ・基礎的基本的な学力の定着のためにいろいろ努力されていることがわかります。
3	・生徒全員が部活（体育クラブ・文化クラブ）に所属することで、仲間を作ることができ、心のケアを図ることが仲間を通じてできるのではないでしょうか。 ・部活動も重要だが、教師生徒の日常に対する対話の繰り返しに尽きるのだと思う。 ・定時制の生徒は、やる気のある生徒だと思います。 ・せっかくの給食を摂らないのはもったいないです。 ・今年度は自由参加になったそうですが、部・委員会活動は大変重要と思います。 ・食事の大切さなど指導が行き届いていると思います。また部活動が活発になることを期待しています。
3	・教師が常に新しい時代に求められることに注目し、それを踏まえて教育活動を実践している。 ・多様化している生徒に関しては、個々の生徒に手厚い指導を根気強く行っていくしかないと思う。 ・資格取得を積極的に進めてください。 ・長期の視点にたった進路指導・キャリア教育を期待します。

留意点　（1）重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
（2）学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。